

# 「終活」で安心提供

## 東北企業が続々

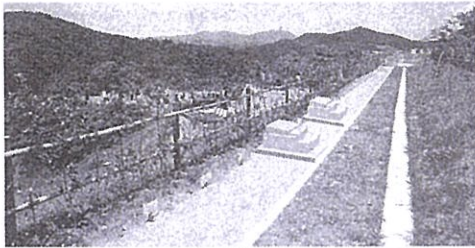
生前に葬儀や墓の準備をする「終活」が広がっているを受け、東北の企業が次々と新たなサービスを始めている。葬祭会社は社員にタブレット端末を持たせ、葬儀の相談に来る人に画像を見せて対応。霊園は墓を継ぐ人がいなくても一定の期間、墓を管理するサービスを始めた。自然の中に葬ってもらいたいという要望に応える企業も登場している。



清月記は事前相談などの対応を強化するため、タブレット約50台を導入した

**清月記** タブレットで葬儀提案

**みやぎ霊園** お墓管理 最長30年



東北の大手葬祭会社、清月記(仙台市)は2015年度から、相談に来る人に葬儀などのイメージを伝えるため、社員にタブレット端末を本格的に配備している。葬儀の進行役などを務める「ディレクター」20人と直営の葬祭場の分を合わせ計約50台を導入した。

主な用途は生前に葬儀の形式を決める「事前相談」だ。終活が注目されるにつれて事前相談の件数は増えており、同社でも年間約1100件と全体の相談件数の2割に上るといふ。

ソフトウェア開発会社、インフォテリアのコンテンツ管理ソフト「ハンドブック」を採用。葬儀の祭壇の飾り方や棺(ひつぎ)の種類、料理などをタブレットで見せる。単価の上昇や成約率の向上につなげ、仙台市内で現在25%程度のシェアを、3年後には30%まで引き上げる狙いだ。

公益財団法人アトラクシア(仙台市)が運営するみやぎ霊園(同)は5月から、墓地管理サービス「墓託(はかたく)」を始めた。墓を継ぐ人が

みやぎ霊園ではあらかじめ期間を定めて使う「有期限墓地」も始めた(仙台市)

いなくなっても、財団が委託を受けて最長30年管理する仕組みだ。

お彼岸とお盆に墓地を清掃し花を供えるなどのサービスがある。30年経つと墓石を解体し、遺骨は霊園の永代供養墓に改葬する。

料金は例えば広さ1坪(3・3平方メートル)で20年間の管理サービスが付いて約80万円。支払いは一括前払いだ。同霊園では、あらかじめ期間を定めて

使う「有期限墓地」も始めた。料金は10年で50万円など。同財団は「少子化で墓を継ぐ人がいないケースが増えている。新たな墓地管理の仕組み作りが課題だ」と指摘する。

I Tベンチャーの百戦錬磨(仙台市)は4月、岩手県遠野市のNPO法人や寺院と共同で樹木の下に遺骨を埋葬する「樹木葬」を始めた。「自然に帰りたい、思い出の地に眠りたい」という願望(同社)に応えた。寺院が購入した広葉樹林の中に埋葬する「里山自然葬」と、埋葬場所に樹木を植える「千年樹木葬」の2種類がある。料金は里山自然葬が20万、30万円、千年樹木葬が58万円から。既に数十件の問い合わせと4件の現地見学があった。収益は同社と寺院、NPO法人で分配する。2〜3年後に少なくとも数千円分の売り上げを見込んでいる。